

■ 戦略研65thミーティング議事録

日 時：2008年12月13日（土）14:00-17:30

場 所：東京・竹橋 ちよだプラットフォームスクエア

テーマ：2018年日本の戦略シリーズ

議論大会 「10年後の日本に向けて～今私たちは何を考えるべきか～」

発表者：戦略経営研究会運営委員会

参加者：参加者9人

（財務コンサルタント、公認会計士、シンクタンク研究員、
会社員、大学教員、NPO法人理事、行政書士・司法書士）

共催：NPO法人日本危機管理学総研

NPO法人農業情報総合研究所

現代政治戦略研究会

1. 副代表から開会挨拶、戦略研趣旨、今回ミーティング趣旨
→資料「戦略研概要」

2. 参加者近況報告

- ・M&A、企業再生を行う。現在、JMECプログラムに参加
- ・不良債権の回収を行う。銀行の無担保債権のバルク
- ・大学のコンサルタントを行う。中々うまく進まず。環境と地方財政につき、執筆中
- ・日本の将来予測を行っていた。危機感高まり、一新塾にて、2030年日本のビジョンを構想中
- ・最近、学習塾に転職しました
- ・現在、政策に関するNPO法人を運営しています

3. レポート（成果）報告

2月レポート「会計検査院改革の必要性」

レポートのポイント

- ・今後の会計検査院のあり方は？（財政の無駄を指摘するために、もっと機能強化が必

要か?)

- ・公会計制度のあり方は?
- ・日本の財政危機はどれだけ深刻か?
- ・財政規律はどの様に保っていくべきか?

参加者からのコメント

・会計検査院のそもそもの役割とは? 無駄の指摘というよりは、事業そのものの存廃を
する必要があるのでは?

- ・総務省版の公会計制度の有効性? 単に自治体の負担となるだけでは?

4月レポート「日本の国家戦略について」

レポートのポイント

- ・日本には国家戦略が無い?
- ・国家戦略はどこで策定されるべきか?
- ・10年度を見据えて、今後どのような国家戦略が求められるか?

参加者からのコメント

- ・そもそも、日本の長期ビジョンが提示されていないのが現状

6月レポート「政策の競争を起こすべき ～政策系シンクタンクの必要性～」

レポートのポイント

- ・政策系シンクタンクの役割とは?
- ・10年度を見据えて、今後政策系シンクタンクの設立、育成のために必要な施策は?

8月レポート「地方自治体改革の問題点とは何か?」

レポートのポイント

- ・「公」において、「官」が独占でなく、いかに「民」が行っていくか
- ・市区町村内、市区町村と都道府県、都道府県と国による、行政業務の重複の多さ
- ・上記重複を指摘した書籍、カナダの財政改革に関する書籍、佐賀市の行政改革に関する書籍を紹介

10月レポート「日本の農業の危機と、農業ビジネスチャンス」

レポートのポイント

- ・日本の農業の抱える問題と、その解決策（農業ビジネスのチャンス）とは?
- ・現在の農業の危機は、農業ビジネス（農業を質的転換的に発展させる）のチャンスでもある

4. 議論大会「10年後の日本に向けて」

→各参加者にて、10年後の日本のSWOT（強み、弱み、機会、脅威）を予想し、
ポストイットに記入。これを、ホワイトボードに貼り付け、
分類。その後、ホワイトボード前に参加者が集い、議論

【強み】

→まとめると、「環境」「技術力」「サービス」「農産物」「イメージ」「ブランド」など

日本の環境技術がスタンダードになる

日本の省エネ技術を海外に広く伝える

自然代替エネルギー技術の発展

環境技術の向上。海外への技術移転・支援＝外貨の確保

環境・省エネ技術が世界をリード

技術力の高さ（ものづくり力）

サービス業のレベルの高さ（細かい気配り。接客、介護、医療、観光など世界に選ばれる）

伝統工芸の復権（ジャポニズムのブームでデザインの良いものが世界で流行）

日本食の海外ブーム

安心・安全な農産物を海外へ輸出

日本の農業技術を発展途上国に伝える

仕事に対して忍耐強い、仕事細かいので、高品質への信頼がブランドとなる

デザインセンス（アパレル、美術、建築、家電など）

世界の国に嫌われていない（無宗教、弱イデオロギー）

修養と相互扶助のベースに社会的支出を要求する運動体

住宅財、公共交通インフラなどが整備されている

特殊法人、監理団体が減少し、無駄な公共コストが減る。行政コストのスリム化

優秀な官僚

スター的な公務員が出て、地方自治がリスペクトされて、東京主義が薄まる

公教育の進行発展

水資源が豊富
地質学的に海岸線が長い
自然との共生

【弱み】

→まとめると、「財政破綻」「社会保障費の増大」「エネルギーの外部依存」「食料の外部依存」「地方の衰退」「政治力の弱さ」「教育危機」「格差」（排他性）など

日本の財政が破綻する
地方財政の悪化→地方債の発行困難→国が支援→国の財政悪化＝円安？
借金の増大。国＋地方
社会保障関連費が急増

地方はさらに衰退する
公共交通インフラなどの補修コスト
地方に新しい産業が起こらない
地方の建設不況が進む

エネルギー供給の負担増
食料自給率30%へ下降

政治のリーダーシップの低さ

競争から退出して諦念。階級、クラスターの増大
ひきこもり
現在、30代のフリーター・ニートが社会負担として顕在化

教育現場の崩壊

少子化の進行

シンクタンク業界の崩壊

【機会】

→まとめると、「世界の多極化」「世界的な環境意識の向上」「日本における世代交代」など

世界が多極化する中でプレゼンスが上がる
西洋文明の衰退

世界的な環境意識の向上
温暖化により農産物の北限が上がる（脅威？）

アジアの通貨統合
アジアにおけるリーディングカンパニー

1億人というマス。内需で経済を回せるボリューム。ダイバーシティや創意工夫のゆりかご（強み？）

日本において世代交代が起こる
公共サービスの担い手として民間の役割が増える
大学教員に社会人経験者が増える

生活ぎりぎりのウォルマート労働者が、少なくとも米国よりは、健康・教育である程度安定している（強み？）
ロボット社会の到来（脅威？）

高齢者が住みやすいまちづくり
地域における子どもの安心・安全対策

【脅威】

→まとめると、「アメリカの弱化」「中国の発展」「食料、エネルギーの確保困難」など

アメリカが衰退する（機会？）
中国が発展する
アジアの中の日本の位置付けが低下（中国の台頭）

食料、エネルギーの確保が困難になる

ピークオイルを超えてエネルギーが輸入できなくなる

世界的に資源価格が暴騰する

世界的に食料価格が暴騰する

交易条件の悪化

GM作物の広がり

独裁者的な政治家が出現して、ワーキングプアから革命が起こる

各地で貧民街が出現し、格差が増大して、住み分けが発生する

財政破綻して、円が暴落。超インフレ

社会保障費、現役負担、増加（弱み？）

社会保障費の増加（弱み？）

医療危機（弱み？）

医療崩壊の進行。近くの病院がなくなる。医師不足（弱み？）

移民政策がクローズアップされる

移民街ができて、民族紛争となる

排外主義がはびこる

天災。地震で首都が麻痺する（一極集中リスク）

北朝鮮問題

【まとめ】

古村副代表より。

SWOT分析は国の全体像を把握するためには有効と言える。

また、今回のSWOT分析からは、強みを維持するためには、弱みを克服する必要があるという点を認識できた。

例えば、「サービス業のレベルの高さ」は強みとして考えられるが、

10年後を想定した場合、現在の日本の弱みである「教育現場の崩壊」により、

その水準が低下する可能性が考えられるという点である。

従って、国の戦略は個々の事象のみに着目せず、それらの事象の関係性を理解しながら全体像を意識して考えていかなくてはならない。

また、こういった議論は世代間格差や地域間格差の話に行き着くことが多い。
資源は有限のため、どの世代に、また、どの地域に比重を置いた戦略となるのかが
論点となり、全員の妥協点を見つけることはとても難しいことだと言える。

なお・・・、書記より。

議論においては、上記のほか、日本の強みとして「人」という指摘もあり、
「人」をいかに活かすか、「人」を活かす「教育」（家庭、学校、企業、社会にて）を
いかに構築するかということも話し合われた。

また、SWOTの機会に強みを投入するという考え方からは、
10年後の日本において、世界の市場へ、「環境技術」や「農産物」「農業技術」を
戦略的に提供していくことも話し合われた。

そして、弱みは克服するという考え方からは、
「財政」「社会保障費」について注目して話し合われた。
この中で、「世代間格差」「地域間格差」についても話し合われた。

5. 閉会挨拶

なお、次回ミーティングのご案内

以上。